

令和5年度データサイエンス・ベーシックプログラム

点検・評価報告書

1. カリキュラムについて
<p>当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、リテラシーレベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの内容を教育しているかについて、当該科目の構成科目である次の科目のシラバスで点検を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">● データサイエンス総論 I● データサイエンス総論 II● エンジニアのためのデータサイエンス入門● データサイエンス概説 <p>上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの学修内容を含んでいることが確認できた。また、昨年度「データサイエンス総論 II に演習内容を各学部の専門分野の関連したものに変更することを検討する」としていたが、今年度はデータサイエンス総論 II を継続して開講すると共に、新たに工学部専門として「エンジニアのためのデータサイエンス入門」を、創生学部専門として「データサイエンス概説」を開講することで対応した。</p>
2. 履修状況について
<p>新潟大学では、一学年の入学者数がおおよそ 2300 人のところ、半数以上の 2032 人が当該プログラムを修了している。また、医学部医学科、教育学部、工学部はほとんどの学生が、他の学部も入学定員の半数以上の学生が当該プログラムを修了していることから、新潟大学では理系学部だけでなく、文系学部でも半数以上の学生がリテラシーレベルの教育を受けていることが確認できた。</p> <p>文部科学省は全国すべての大学生、高等専門学校生にリテラシーレベルのデータサイエンス教育を実施することを目標としているので、今後も継続して多くの学生が当該プログラムを履修するように学生への呼びかけなどの努力が必要である。</p>
3. 授業評価アンケートの結果について
<p>データサイエンス総論 I は 19 科目、データサイエンス総論 II は 16 科目、エンジニアのためのデータサイエンス入門は 9 科目、データサイエンス概説は 1 科目が複数の教員により開講されており、授業評価アンケートを点検した。ほとんどの科目において、学生は受講マナーを守って授業に参加しており、シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。一方、「学生が積極的に議論や協同作業すること」や「教員が学生の発言を促す」の評価については、一部の科目では評</p>

価が高かったが、多くの科目では評価が低かった。昨年度も同様の評価結果であり、改善策を試みるべきであったが、本プログラム自体が2023/3/6に教育・学生支援機構からビッグデータアクティベーション研究センターへと管轄移動したこともあり、対応が遅れている。次年度以降に改善を試みる予定である。

4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルの内容を含んでいることが確認できた。今後は、当該プログラムを履修する学生を増やす努力が必要と考える。また、授業担当教員で授業方法を共有し、授業改善を行う必要がある。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI教育プログラム評価委員会